

子鴨子牛心鹿心之狀、小野氏曰鹿心柿形如牛心柿最小、俗名爲乃岐毛一名不天加岐。
〔古今和歌集^{十名}〕やまがきの木
よみ人ゑらす

秋はきぬいまやまがきのきりくすよなくなかも風の寒さに

〔日本山海名物圖繪^二〕大和御所柿

和州御所村より出柿の極品なり、餘國にも此種ひるまりて多し、御所より出る物名物なる故に御所柿といふ、

〔紀伊續風土記^{物産六下}〕紫金柿シロガキ喬木にして木皮淡黄色にして内深黄色なり、枝莖に脂膠多くし、
いまだ見ず、日高郡にて龍モクといふ、救荒本草に載する黄
櫨恐くは是なるべし、古説に黄櫨をいふ、救荒本草に載するは誤なり、

〔柿本氏系圖〕むかしならの御門の御時、かきの本の丸といふいまそかりける、歌の道妙にして、
院内へもおりふしごとにもまいり、朝夕御遊のまじらひをのみし給ふほどに、御所がきとめさせ
給ひける、さるべきいとなみもせで、のりをすりていちにうりければ、世の人御所がきのこねり
となむ申ける、子どもあまたもちたり、太郎さねなりは、あかしのうらにてまうけたる子なれば、
かのうらに住けり、はやうまだきにいと若き比より、びむひげしろくて、京にかへり、父とおなじ
く君様御前へもたち出はかぐしきまじはりをゆるされたり、さればあまの子なればとて、
りがきとぞめされける、木ざはしの次郎は、心ざま父よりはをとりけれども、ほらからのうちに
は、いちはやきみやびするものなり、三郎なりけるは、かたちふつ、にかしてかたくななれば、ひ
えの山にのぼせ學問させけるが、びんぎのみねに行みづから八わうじとがうす、その弟あり、し
ぶ川のなにかしとかや武士のがり、入むこしてけり、心すねきしぶりて、世の人の口あかすべき
もあらず、やうくとしへて後、しうともてあつかひて、様々いませめけることの中、にうたてし
きは、このむこしぶがきを粉にくだき、あぶらをこして、調度つ、むつぎ紙、ちはやぶる紙子をそ